

山里川海の一体保全に寄与することを目的に、一般社団法人グリーンバナー推進協会は大自然のなかや一次産業の現場で調査や保全活動を続けております。

その現場から、特に気になるトレンドや現象を連続レポートでリアルにお伝えしたいと思います。

第3回目は観光と森林保全の両立についてお伝えさせていただきます。

国立公園の利活用や森林の観光資源化が観光政策の柱のひとつに

環境省は、平成28年度から「国立公園満喫プロジェクト」と銘打って、全国8か所の国立公園で「国立公園ステップアッププログラム2020」を策定し、2020年を目標にインバウンド対応の取組を計画的・集中的に実施し、日本の国立公園を世界の旅行者が長期滞在したいと憧れる旅行目的地にすることを目指しています。

政府が目標として掲げる、2020年の訪日外国人旅行者数を4,000万人とする計画を実現するためには、いわゆる「ハコもの」には限界があり、訪日外国人アンケートでも毎回上位を占める日本の自然環境を磨くことが最も効果的という識者も多くいます。

National
Parks
of Japan



国立公園の統一マーク

日本遺産に登録して森林保全と観光振興を両立を目指す「葛城二十八宿」

この「国立公園満喫プロジェクト」の対象は、8つの国立公園に対象が限定されており、他地域には適用されませんが、代わりに「日本遺産」の制度を活用する方法も有効と思われます。日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。

グリーンバナー推進協会が3年前から多くの自治体や地域団体に協力して取り組んでいる「葛城二十八宿プロジェクト」は、森林保全と観光振興を両立させることで深い歴史的背景を持つ森林とストーリーを次世代につなぐことを目的に進めてきましたが、このほど和歌山県庁が中心となり日本遺産に申請することが決まりました。「葛城二十八宿」というのは修験道の開祖・役小角（役行者）が開いた、熊野古道よりも古い歴史をもつ修行の道です。役小角が經典の経塚が28カ所あることから二十八宿と呼ばれています。

【和歌山県～大阪府～奈良県の18自治体にまたがる二十八の経塚】



大阪府	柏原市 河南町 河内長野市 和泉市 岸和田市 泉佐野市 阪南市 岬町
奈良県	王寺町 香芝市 葛城市 御所市 五條市
和歌山県	橋本市 かつらぎ町 紀の川市 岩出市 和歌山市

各経塚付近には古刹・名刹が多くある

目標の共有で超広域自治体連携を実現

葛城二十八宿は、日本最古の修行の道として本来は歴史的に高い価値があるはずですが、人々の森林離れが進む中で忘れ去られ、林道整備や土砂の崩落などで経塚の位置さえも不明瞭になっている地域もある状態でした。そこで、研究者や観光協会や新聞社や地方議員など各地域の有志が集まり、まずは皆で葛城二十八の正式ルートを歩いて体験を共有し、森林保全と文化財保全と観光振興を三位一体で推進する方策について意見を出し合うことから始めました。



和歌山市友が島の崖の行場



大阪府泉佐野市の滝の行場



大阪府河内長野市の経塚



和歌山県紀の川市の行者堂



和歌山市での研究会



大阪府河内長野市での研究会

歴史ある山道と史跡の保全や広報のためには観光収益が大きな力となります。一方で、史跡が破壊されたり、文化財が盗まれる事件も発生しており観光客が増えることへの懸念もあります。

森林・文化材の保全と観光の両立は重要なテーマとして議論が重ねられました。

日本遺産に登録することのメリットは数多くあります。第1に、日本を代表する価値ある文化財とストーリーであることを文化庁が認めることで広報が格段に行いやすくなります。第2に、日本遺産となった文化財やストーリーを観光に生かすために必要な諸整備費用が補助金として提供されやすくなります。そして、葛城二十八の場合は18自治体にまたがる道が対象となるのですが、関連自治体による超広域連携を実現する上で日本遺産登録という分かりやすい共有できる目標があることは強い武器となります

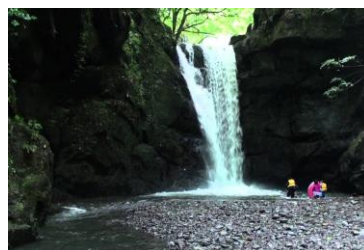
森林の大切さはわかっているにもかかわらず、漠然と森林の保全を訴えたところでボランティアでは限界があり、間伐や植樹などの整備はなかなか進みません。であれば、文化財破壊などのリスクを最小限に抑えながら観光客を積極的に受け入れて森の経済を創出することで財源を生み出す方が持続性のある森林保全と文化保全が果たされると考えております。

持続可能な新しい森林保全のサイクルを創出

日本遺産の登録が実現した後も魅力を維持し発展させるためには強い組織体制が必要です。申請主体となる自治体はもちろん、ステイクホルダーを中心に民間の企業や団体が高い意識をもって参加しなければなりません。

観光に生かすだけでなく、自然教育と歴史教育の要素を盛り込んだ自然学習のフィールドとして小学校の授業に取り入れるのもひとつの考えです。また、かつて山中の村々が行者たちをもてなしたように、地域の高齢者などが葛城二十八宿を歩く旅行者に地域の名産を販売するようなサービスも考えられます。

国の制度を有効に活用しながら森の経済を創出し、持続できる森林保全の新しいサイクルを作る事、全国の山間部をもつ自治体にとって大切なテーマに違いありません。グリーンバナー推進協会はこのモデル作りに取り組んでいきます。



河内長野市の行場「四十八滝」



最後の経塚「二上山」